

『田んぼダム』実施中 ～農地・水・環境保全組織 いなばエコフィールド協議会～

いなばエコフィールド協議会は県内でも先駆けて田んぼダムに取り組んでおり、平成 24 年度から開始して今年で 14 年目を迎える。齋藤豪運営委員会会長に実施にあたってのポイントを聞いた。

☆大切にしていること

- ・農家が主役
- ・協力する農家の負担にならない

農家は日ごろから田んぼの水管理を行っています。農家の意見を参考にして、普段の水管理と田んぼダムの水管理を同時に行えるように水位調整板を改良することで、農家の作業負担を減らせるようにしました。

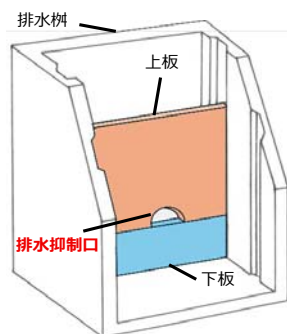


運営委員会会長
齋藤 豪 さん

☆田んぼダムに興味を持った方へ

- ・田んぼダムを実施したことによる営農上の問題は今まで一度もない
- ・田んぼダムは広い面積で取り組むことで効果が出る

長年、協議会で実施してきて、畦畔が崩れた、稲の成長や品質が低下したといった被害は一度もありません。田んぼダムは流域全体で取り組むことが重要です。この先も地域や大切なものを守るために田んぼダムの導入を考えてみてください。



協議会で使用されている排水樹と
水位調整板の図



水田に設置されている排水樹と
水位調整板



田んぼダムに雨水がたまっている様子

地域の取り組みを支える因幡堰土地改良区

いなばエコフィールド協議会は、鶴岡市藤島地域を中心とする約 1,220ha の農地を対象に、田んぼダムだけでなく、農地の保全に地域と一体となって取り組んでいる。

事務局を担う因幡堰土地改良区は、「地域に必要とされること」を第一の理念としており、様々な地域活動を通じて住民との信頼関係を築き、協議会の活動を支えている。地域の協力が、持続可能な農業と豊かな地域づくりの力になっている。



いなばエコフィールド協議会の区域

【田んぼダムに関するお問い合わせ】

山形県農林水産部農村整備課、各総合支庁産業経済部農村計画課まで

山形県の田んぼダム
普及動画はこちら⇒



地域を守るための取り組み

～田んぼを活用した治水対策～

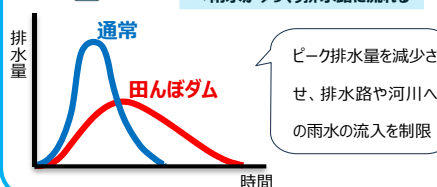
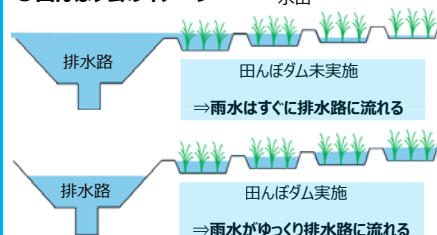


田んぼダムの仕組み

○田んぼダムに必要な取り組み

- ・畦畔の保全
- ・水田の排水樹に水位調整施設を設置

○田んぼダムのイメージ



水田を利用した防災・減災への取り組み

近年大雨や突発的な豪雨が頻発しており、それに伴う河川氾濫などの発生が増加している。このような大雨や豪雨災害に対して、流域治水として現在「田んぼダム」が注目されている。

田んぼダムとは、田んぼの排水口に排水する量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板等の器具を設置することで、雨水をゆっくりと排水し、下流域の氾濫被害を小さくする取り組みである。この取り組みを拡大するには農家の協力が必須であるが、「設備の付けが簡単で即効性がある」「安価な費用で防災・減災対策に取り組める」等の利点があり、水田面積の大きい山形県で実施することで、大きな効果が期待できる。山形県では、令和 6 年度末時点で、農家等で構成される 60 の団体等において、約 4,700 ha (県内の水田全体の約 6%) の水田で取り組まれている。